

(写真・文 太田祥作)

## タケウチトゲアワフキ

(学名: *Machaerota takeuchii*)

【カメムシ目トゲアワフキムシ科】



▲ 背中の一本人角が特徴的な成虫。オオバボダイジュの枝先に見られる

背中に大きなトゲをもつアワフキムシの仲間です。本州・四国・九州の山地にやや局地的に分布する珍しい種ですが、只見町には広く生息しています。大きさは5～8mmしかないものの、その姿は南米のツノゼミを思わせ、こんな変わった虫が身近にいたのかと驚かれるでしょう。

この虫はシナノキ属の樹木にだけ付きます。幼虫は細い枝に石灰質の巣を造り、樹液を吸って成長し、成虫になっても木を離れません。

只見町のタケウチトゲアワフキは、シナノキ属のオオバボダイジュから見つかっています。オオバボダイジュは基部が歪んだハート形の葉をもち、その先端は尖るほか、裏面に毛があり白く見えるといった特徴があります。成熟した木の高さは2.5mに達することもあります。

タケウチトゲアワフキの成虫の出現時期は5月から6月、フジの花が咲く頃です。身近にオオバボダイジュがあったら、梢を見上げて探してみてください。



▲ 幼虫の巣は頑丈で、枝にしっかりと巻きつく



▲ オオバボダイジュの葉(上)と樹形(右)



### 只見町ブナセンターからのお知らせ

下記イベントを開催しております。詳細は只見町ブナセンター（電話0241-72-8355）までお問い合わせください。

**企画展「誕生から10年。只見ユネスコエコパークの  
ここまでを振り返り、これからを考える」**

会期：2024年4月27日(土)～9月1日(日)

場所：ただみ・ブナと川のミュージアム 2階ギャラリー